

水田地帯における農村環境保全活動

都市的地域

24. 千代の農村環境を守り育てる会（神奈川県小田原市）

- 本地区は、古代から微高地で早くから拓けて、現在でものどかな田園風景が広がっている地域である。
- 地域の耕作のほとんどが水稻栽培を行っており、河川や水路からの豊富な水の恩恵を受けている。
- 農業者による組合により農道や水路などの保安全管理が行なわれてきたが、農業者の高齢化や担い手不足により、作業への参加者が減少し、金銭的な負担が増加傾向にあった。
- 区画整理は一部で行われているものの、施設が老朽化し、市への要望は毎年行うものの十分な整備が行えていない。

【地区概要】

- ・取組面積 18.18ha
(田 18.18ha、畑 0ha)
- ・資源量 開水路 9.0km、農道 7.5km
- ・主な構成員
農業者、自治会、土地改良区、JA

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題



農業用水路の管理通路の補修

○水路・農道の草刈り、泥上げは、多面的機能支払に取り組む以前から地域の農業者が組織する委員会によって行われており、農業者から負担金が徴収されている。

○地域内に相続による非農業者所有の農地が徐々に増え始め、遊休農地も同様に増加傾向である。今後は耕作放棄が危惧される。

取組内容



農地、農業用施設の点検

農道の砂利補充



○以前から取組が行われていた水路・農道の草刈り、泥上げに加え、レンゲによる景観形成などを実施

○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の駆除活動も行っている。

効果、課題、今後の展開



総会
(年間事業計画)

○耕作しやすい優良水田については維持・耕作がされているが、狭小水田の活用が課題となっている。

○今後は、現状の営農状況を維持していくため、集落等のまとまりによる農作業の共同化などの取組も想定される。

○酒匂川左岸土地改良区内の多面的機能支払へのモデル地区として活動を開始し、周辺への多面的機能支払の認知度を上げ、制度への取組を促進する。